

ヨトウコン®-H

農林水産省登録 第19290号

(信越化学工業(株)登録)

性状：淡黄色澄明可乳化油状液体(ポリエチレン細管に封入)

毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

消防法：第4類第3石油類

有効年限：1.5年

包装：50m巻×12、(20cm×100体)×40袋

有効成分：(Z,E)-9,11-テトラデカジエニル＝アセタート・・・66.0%

(Z,E)-9,12-テトラデカジエニル＝アセタート・・・6.0%

ヨトウコン®は信越化学工業(株)の登録商標です。

特長

- 本剤はハスモンヨトウの成虫に作用し、交信攪乱効果により成虫の交尾行動を連続的に阻害し、次世代の幼虫密度を抑制する性フェロモン剤です。
- 従来の殺虫剤に感受性の低下したハスモンヨトウにも有効です。

適用病害虫名および使用方法

作物名	適用場所	使用目的	適用病害虫名	本剤の使用量	使用時期	使用方法
ハスモンヨトウが加害する農作物	ハスモンヨトウ加害作物栽培地帯	交尾阻害	ハスモンヨトウ	20～200m/10a (20cm チューブの場合 100～1000本)	成虫発生初期から 終期まで	露地 (作物上に支柱等を用いて固定する)
				20～200m/10a (20cm チューブの場合 100～1000本)		施設 (施設内上部に固定する、又は枝等に巻き付ける)

使用上の注意事項

- 本剤はハスモンヨトウ雄成虫の交尾行動を連続的に阻害して雌雄の交尾率を低下させ、次世代の幼虫の密度を抑えることを目的としています。
- 本剤の使用にあたっては、10アールあたり20～200m(20cmチューブの場合100～1000本)ですが、立地条件や風向、傾斜等により効果が振れる場合があるので、諸条件から判断して、必要な場合は使用量の範囲で、特に周辺部に多めに設置することをおすすめします。
- 本剤は、通常1回の使用で4ヶ月程度の効果が期待できますが、気温の高い施設ではそれより早く効果が低下することがあります。また、ハスモンヨトウの発生期間がそれより長い場合は2回目の使用をすることをおすすめします。
- 本剤は発生密度の高い場合には効果が低下することがあるので、他の薬剤と併用してください。
- 施設で使用する場合、既交尾のハスモンヨトウ雌成虫には効果がないので、施設開放部に寒冷紗等を張り、これらが施設外より飛来しないように努めてください。
- 下部で換気をおこなっている施設では使用しないでください。
- 本剤は、外装のアルミ箔袋を開封したまま放置すると、有効成分が揮散するので、必ず使用前に開封して使用し、冷暗所(5℃以下)において保管してください。
- 本剤の使用にあたっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病害虫防除所等の指導を受けることをおすすめします。

安全使用上の注意事項

- 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意してください。
- 付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- 使用の際は手袋を着用してください。
- 危険物第四類第三石油類に属するので火気には十分注意してください。
- 火気をさけ、直射日光が当たらない低温な場所に密封して保管してください。

ヨトウコン-H 技術情報

ヨトウコン-Hの上手な使い方

- 施設内の上部、なるべく天井に近い部分に処理して下さい。
- 内部にカーテンを付ける場合には、カーテンの内側に処理して下さい。
- ハウスの間口10mにつき、1本の割合でハウスの端から端まで張り渡すと、100m/10a 処理になります。
(間口5mに一本で200m/10a 処理)
- ハスモンヨトウ成虫の密度が少ない時から設置すると効果的です。
- 処理時にハスモンヨトウの密度が高い場合には、適当な殺虫剤を併用して下さい。
- 野外でハスモンヨトウ成虫が発生する時期に処理する場合、交尾済みの雌成虫の侵入を防ぐために、開口部に防虫網等を設置して下さい。
- 有効期間は3～5ヶ月です。(ハウス内の気温で左右されます。)
- 裾換気の場合、有効成分が換気部分から流れ出てしまいます。下部で換気するハウスでは使用できません。

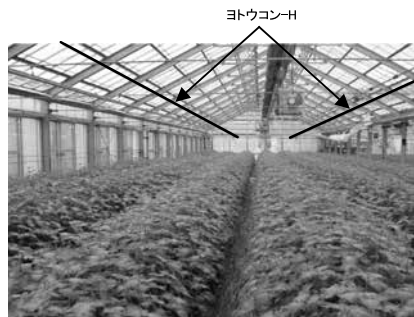
使用量の目安

- 処理する時期により、ヨトウコン-Hの処理量を調整してください。
- 下表は目安です。ハスモンヨトウの発生量・気温等により適宜調整して下さい。

時期	ハウス外でのハスモンヨトウ発生状況	処理量/10a	その他
春～夏	発生が始まる。密度は徐々に増加する。	150～200m	防虫網を併用
	ハウスへの飛び込みが見られる。		
夏～秋	7～9月に発生がピークに達する。	200m	防虫網を併用
	ハウスへの飛び込みは多い。		
秋～冬	発生が徐々に収まる。11月以降はハウスへの飛び込みは少ないか、なくなる。	100～150m	防虫網を併用 (初期)
冬～春	野外での発生はない。 ハウスへの飛び込みは見られない。	100m	

ハウス内設置例(イメージ)

施設の梁やマーカ線を利用して施設内の上部に張り渡します。
(写真中の矢印で示した太線がヨトウコン-Hを示します)

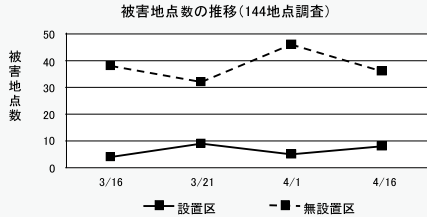


ヨトウコン - H 試験成績

1. 大葉(施設)のハスモンヨトウに対する効果

(大阪農林技術センター 1992)

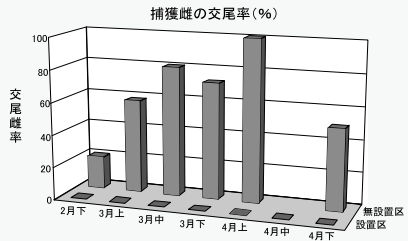
試験場所：大阪府摂津市 現地ハウス
 供試作物：しそ(大葉) 1991年9月6日定植
 処理月日：1991年11月16日、
 1992年2月25日(2回処理)
 処理葉量：200m/10a × 2回



2. ぶどう(ハウス栽培)のハスモンヨトウに対する効果

(岡山農試 1996)

試験場所：岡山県岡山市古都宿 現地ハウス
 供試作物：ぶどう(デラウェア) 6~7年生
 12月初旬加温、4月収穫
 処理月日：1996年2月5日
 処理葉量：200m/10a



新梢被害率(%)の推移

